

テレマコス(Telemachus)は[オデュッセイア](#)の主要人物で、オデュッセウスと[ペネロペ](#)の息子である。父が行方不明になって以来、屋敷に押しかけるペネロペの求婚者たちに悩まされていたが、やがて放浪から帰国した父とともに策略をめぐらし、屋敷の求婚者を討ち果たした。

系譜

- 父は[オデュッセウス](#)、母は[ペネロペ](#)。

解説

- [オデュッセイア](#)第一歌～第四歌までは特にTelemachyとして言及されることがある。
- [デルフォイ](#)の神官は、ハドリアヌス帝に[ホメロス](#)が何者か訊かれた時、テレマコスをもメロスの父とした。



([画像/ネストルのもとを発つテレマコス](#))

オデュッセイアでのエピソード

- アテナは[テレマコス](#)に、集会を開催して求婚者の悪行を訴えることと、父の消息を尋ねて旅することを勧めた。(第1歌)
- 集会を催し、求婚者の悪行を訴えたが、効果はなく散会となった。船で旅に出発した。(第2歌)
- [ピュロス](#)で[ネストル](#)に会った。ネストルは[オデュッセウス](#)の消息は知らないという。(第3歌)
- [スパルタ](#)で[メネラオス](#)と会った。オデュッセウスの消息を語った。(第4歌)
- アテナは[テレマコス](#)を呼ぶため[スパルタ](#)へ向かった。(第13歌)
- アテナに言われて[イタカ](#)へ帰ると、豚飼[エウマイオス](#)の農場に向かった。(第15歌)
- 豚飼の小屋で父と再会した。二人は求婚者殺害の策略を練った。(第16歌)
- 屋敷に帰館し、母に会った。(第17歌)

屋敷で求婚者たちに大胆な口をきく。(第18歌)

- 父と二人で広間の武器を隠す。(第19歌)
- 求婚者たちに、客に暴言を吐かぬよう強く注意する。(第20歌)
- 弓の腕競べで、弓を試みる。(第21歌)
- 父と二人の忠実な下僕とともに求婚者と戦う。求婚者を全員誅殺する。(第22歌)
- 父の命令で、屋敷で偽りの婚礼を行う。ラエルテスの農園に向かう。(第23歌)
- 求婚者の親族たちと戦う。(第24歌)

エピソード

オデュッセウス、トロイアに出征する テレマコスが生まれたばかりのころ**トロイア戦争**が起こり、彼の父**オデュッセウス**は戦争に呼ばれた。オデュッセウスは畑に塩を撒いて狂ったふりをし、召集を逃れようとした。召集の使いで来ていた**パラメデス**は、オデュッセウスが進める鍬の前に赤ん坊の**テレマコス**を置いた。オデュッセウスは思わず鍬を止め、これにより正気なのが発覚し、戦争に行く羽目になった。

求婚者たちに苦しめられる **トロイア戦争**が終了し、十年が経っても**オデュッセウス**は帰国することがなかった。皆が彼は死んだのだと信じた。未亡人になった**ペネロペ**と結婚しようと、多くの貴族たちがオデュッセウスの屋敷にやってきた。彼らは屋敷の財産をさんざん食いつぶした。

父の消息を求め旅をする **メンテス**に扮した**アテナ**の助言で、求婚者たちの悪行を住民集会で訴えるが不調に終わる。テレマコスは父親の消息を求めて旅に出た。まず、**ピュロス**で**ネストル**に会うが、そこで父の消息は得られなかった。次に**スパルタ**で**メネラオス**に会い、そこで父が活着していることを知った。

父と再会し、求婚者を殺す **アテナ**の導きにより、**イタカ**に戻ると、そこで父**オデュッセウス**と再会した。二人で計略を練り、屋敷で求婚者全員を討ち果たすと、不実の召使いや女中たちを処刑した。

イタカの王位を継ぐ **オデュッセウス**は**ネオプトレモス**の裁きにより、追放された。テレマコスは父の後を継いで**イタカ**の王になったが、求婚者の遺族たちに賠償を払うよう命じられた。

魔女キルケと結婚する **オデュッセウス**と**キルケ**の子**テレゴノス**が、父に会いに**イタカ**へやってきた。そこで彼が牛を盗もうとしたので、オデュッセウスとテレマコスは正体を知らないまま彼と戦った。テレゴノスがオデュッセウスを殺した後、彼らが父子だと分かった。テレゴノスは**アイアイ**島にテレマコスとペネロペを連れて戻った。そこでテレゴノスはペネロペと、テレマコスはキルケと結婚した。